

競技力向上について

フェンシング専門部
与野高校 森角 正

1、全国の競技力について

かつては大多数が高校進学と同時にフェンシング競技に参加するといった状況であったが、現在は小学生からスタートする選手が増加し、高校生の大会でも上位者は小中学校での経験者が非常に多くなっている。私立の中高一貫校ではすでに好成績を残している高校も多いが、公立高校でも地域のフェンシングクラブとの連携により、実績を重ねている学校が増加している。また、国立スポーツ科学センターやナショナルトレーニングセンターで強化された選手（エリートアカデミー）の活躍はめざましいものとなり、高校のフェンシング部の位置づけも難しいものになりつつある。

2、埼玉県登録校の現状

男子 ・埼玉栄高校 ・立教新座高校 ・春日部共栄高校 ・与野高校 ・秀明高校 以上5校
女子 ・埼玉栄高校 ・春日部共栄高校 ・与野高校 以上3校

ただし、秀明高校は個人登録選手1名（3年）のみ。また、春日部共栄高校は開校以来勤務していた顧問教諭が退職し、在籍者も3年男子のみとなり廃部の可能性が出ている。

さて、高校単独の時代から全国的に活躍を続けている埼玉栄・立教新座だが、中学校併設に伴い、両校とも中学校フェンシング部が誕生し、中高一貫指導の成果が十分発揮されている。特に埼玉栄はインターハイ・全国選抜での制覇があり、卒業生を中心にした国体チームでの全国制覇やオリンピック選手の輩出もしている。

一方全国的には、特に国体が中学3年生に出場資格を与えられるようになり、各地で中学生の強化が進んでいる。都道府県によっては中学3年生がチームのエースとして活躍する場面も多く見られ、インターハイ等の広域大会でも入学間もない高校1年生の活躍が増加している。公立高校においても、地域スポーツとの連携を進め、成功している事例が増えている。

埼玉の場合は学校以外でいくつかのフェンシングクラブが存在しその出身の者、また都内のフェンシングクラブの出身の者が中学フェンシング部に進学するケースもときどき見られるようになったが、連携とまでは行っていないのが現状である。県高体連フェンシング専門部としての強化行事というのは実質ほとんど行っておらず、国体選手の強化に合わせた協会主催の強化行事で高校生の強化が行われているのが実態である。

3、高体連行事と協会行事との関わり

最近が高体連行事以外の大会が増加し、それらに出場しながら経験・技術の習得に結びつける者も多い。また日本フェンシング協会主催の強化行事も多く行われ、埼玉県以外の選手との合宿や講習会を通じた切磋琢磨により強化している面もある。

A, 高校生が参加するおもな大会

- ・ 5月上旬：関東大会予選→6月上旬：関東大会
- ・ 6月中旬：インターハイ予選→8月上旬：インターハイ
- ・ 8月中旬：国体関東ブロック大会 → 10月上旬：国体
- ・ 11月中旬：新人大会 → 1月下旬：関東選抜大会 → 3月下旬：全国選抜大会

B, その他の大会（おもに高校生の年代が対象のもの）

- ・ 7月：東京都カデ（17歳未満）選手権 → 1月ジュニアオリンピック・カデの部
- ・ 8月：東京都ジュニア（20歳未満）選手権→1月ジュニアオリンピック・ジュニアの部
- ・ 5月・6月：サーブル・ジュニア・カデランキングマッチ
- ・ 6月・7月：エペ・ジュニア・カデランキングマッチ
- ・ 10月：全国ジュニア・カデ・エペ選手権
- ・ 11月：全国カデ（フルール）選手権
- ・ 2月：関東少年（フルール）大会

C, その他の大会（おもに中学生の年代が対象のもの）

- ・ 5月：東日本少年大会
- ・ 7月：全国中学生大会（個人）
- ・ 9月：牧杯ジュニア選手権大会
- ・ 10月：全国中学生大会（団体）
- ・ 2月：関東少年大会（フルール）

このように年間を通じて多くの行事が行われており、ここからさらに日本代表として国際試合を経験し力をつける選手が多い。これらの行事への参加により強化されていく側面が否めないが、これらをこなしていくのは数少ない中高一貫校の顧問によるものであり、指導者不足の問題は深刻である。協会主催の行事は国際規格によるので、学年が基準となる高体連行事とは微妙なずれがあり、1～3月に生まれた高校生は17歳未満の大会に出場する機会が多くなる。特に高校からフェンシング競技を開始する者にとっては、早生まれは大きなチャンスでもある。

3、プラチナキッズとの連携

今後大いに期待されるのがプラチナキッズのような有望選手の発掘事業との連携であろう。現在県フェンシング協会としても毎年このプラチナキッズに対してフェンシング教室を開催しており、第一期生が今年埼玉栄高校に進学している。また現在の小学生が4名国立スポーツ科学センターでフェンシングの指導を受けており、その今後の進路にも期待が寄せられている。